

## フィリピン人物探訪

『フィリピン人物探訪』と題しまして、フィリピン駐在6年となる三島義史さん（矢崎トレス工業 ご勤務）に空手家 月井隼南さんをご紹介します。隼南さんとの出会いは2018年のアジア選手権での銅メダル獲得の際に、日本国大使館主催で開催された祝賀会での出会いが最初だったとのこと。それ以来、支援仲間と共に彼女の努力をつぶさに見てこられました。

三島さんご自身も大阪教育大学時代、体操部に所属されたスポーツマンであり、以前は青年海外協力隊員として海外で体操競技の普及・育成にあたられたご経験をお持ちで、同じく海外協力隊員のご経験をお持ちの月井さんのお父様とも意気投合され、その後応援を続けられて来られたそうです。それでは、三島さんの力のこもった文章をお楽しみください。

### 孤高の空手家 “月井 隼南(JUNNA)” という選手

三島 義史



今回 「まぶはい」 への投稿のチャンスをいただきましたので、この機会に世界空手界で大活躍されている フィリピン代表

“月井隼南 (Tsukii Junna) 選手” の活躍と人となりについて紹介させていただこうと思います。

私が隼南選手に初めて出会ったのは 2018 年インドネシア・ジャカルタで行われたアジア選手権に於いて銅メダルを獲得、フィリピンに初めてのメダルを持ち帰ったすぐその後の事でした。ひょんなことから、フィリピンと日本のハーフの女性でメダルを持ち帰った空手選手がいると聞きつけ、フィリピンナショナルチームの練習を見学する機会を得たのでした。そこで目にしたのは、とてつもない動きの速さと柔軟性に満ちた体さばきで大きな男性選手を手玉にする 一見“じゃりんこチエ (失礼!)”を思わせる小柄な女性。その動きと気合は、長年の鍛錬で鍛えぬいた一流アスリートそのものと魅了されました。同時に私が不思議に思ったのは、小・中・高校・実業団と日本の大きな大会を総なめにし、途中大けがを負いながらもそれを克服、日本代表も経験し、世界レベルの強豪選手がひしめくアジア大会で銅メダルをとってしまうという輝かしい実績と実力を持つアスリートが、母国とはいえ何故オリンピックを 2 年後に控えたこのタイミングでフィリピン代表になる事を選んだのだろうと・・・



- \* 女子空手組手 5 0 Kg 以下級
- \* 世界ランキング最高位 ; 2 位
- \* 1991 年 9 月 30 日 マニラ生まれ
- \* 3 歳の時に両親と共に日本へ
- \* 特技 : こてこての大阪弁

2016 年、 2020 年東京オリンピックに空手が初めて採用されることが発表されました。当然 日本では空手選手たちにも大き

な注目が集まり、オリンピック出場が有力とされる選手たちが今までになく報道の電波に乗る機会が増えました。そんな大きな環境変化をしり目に、隼南選手はフィリピン空手連盟のオファーに応じ、2017年4月、単身でフィリピンに移住を決めています。これは一見するとオリンピック出場を容易にするためにフィリピン代表を選んだのではと思う人たちもおられるかもしれません。でも実際には、オリンピック出場権を得るためには、世界空手道連盟（以降、WKF）が主催し世界各地で行われる大会でポイントを稼ぎ自身の階級で世界ランキングトップクラスに入る必要があります。ある一国の代表選手になったからと言って、そのままオリンピックに出れるわけでは決してありません。ましてやフィリピンは当時 WKF に加盟していなかったもので、世界ランキングを獲得するための舞台で戦う道すらそこにはなかったのです。また、世界の強豪と戦う事を生業とする選手にとって、十分な練習環境と世界各地を移動しての連戦を支えるスタッフ・競技連盟による支援は勿論、トップ選手に匹敵する練習相手が必須ですが、連盟からの経済的支援はおろか当時フィリピンには世界ランカーの選手は男女ともに一人としていなかったのです。では、何故・・・？

隼南選手にフィリピン移住を決めた理由を聞くと、「自身がフィリピン代表で戦う事によって少しでも空手に注目してもらえたい環境を作りたい。オリンピックに採用され注目が集まっている今が絶好のチャンス。どこの国でも、どんな環境にあっても子供たちに夢を持つ機会は平等にあって欲しい。20年間何よりも長く深く向き合ってきた空手を通してフィリピンの子供たちに夢を持たせてあげたい。」 この一心だったと彼女は語っています。

2018年 大きな転機が訪れます。それが、インドネシアで行われたアジア選手権でした。同選手権は WKF 主催の大会ではなく、各競技のナショナルチームが参加でき、アジアの国々のプライドがぶつかり合う大会です。勿論フィリピン空手連盟も最も重要視していて、結果が出せなければ国からの競技団体への資金援助も打ち切られてしまうという危機感を持って臨む大会でした。おのずと隼南選手への期待は高まります。アジア大会といえども空手に関しては世界ランカーが大勢ひしめいています。他の階級のフィリピン代表が強豪を前に敗退していく中、皆さんご存知の様に隼南選手は銅メダルを獲得し、アジア空手界を驚かせます。

メダルと共に凱旋した隼南選手は、当時のドゥテルテ大統領からマラカニアン宮殿に招かれ直接祝福を受け、また当時の日本国大使からも祝福を受けるという栄誉に浴し、フィリピンでの空手への注目度を一挙に引き上げることとなります。このことに背中を押されたフィリピン空手連盟は WKF への加盟を決めます。自身でこじ開けた「オリンピックへの第一歩」でした！

表舞台でもっと勝ちたい！ 本来の闘争心に火が付いた隼南選手の東京オリンピックを目指したいばらの道はここから始まったのでした。

2019年2月から オリンピックポイントを得ることができるリーグに参戦、オリンピックまで1年強、ライバルたちに比べ参戦し始めたタイミングが遅かったため 参戦段階の世界ランキングが600位。

オリンピック出場資格は 少なくともランキング5位以内・・・

そんな状況をもろともせず、練習道具と道着、転戦先で食べる

日本食材を満載したトランクを担ぎ、狂気のごとく世界各国を飛び回っていきます。“ワールドチャンオンシッ” “セリエ A” “プレミアムリーグ” フランスにいたかと思えばチリにいて、次の週にはカザフスタン、スペイン、ポルトガル、アルゼンチン、 次の試合までに時間がある時は練習相手を求めて強豪選手がいる国の合宿に参加、試合や練習で負った怪我をいやす暇もなく・・・(試合は寸止めがルール、殴っちゃいけないと言いますが、実際は相当どつき合うのでしょうか。毎回試合後は、若い女性なのに顔の傷は当たり前、顔の半分を腫らし、指は閉じることが出来ないほど腫れているというのが日常のようでした。) 顔を腫らしたままでインスタグラムに“応援ありがとう！”って登場してしまいます。流石です・・・ (-\_-;)

2019年～2021年まで 試合・合宿で回った国は24カ国、合計8つのメダルを獲得し気付いた時には世界ランク2位まで上り詰めていました。

特に、2021年 オリンピック最終予選直前にポルトガルで行われた大会で初の金メダルも獲得しています。世界チャンピオンです！(女子空手の世界で30歳で金メダルって・・・ギネスブックに登録してもらえるのではと思うのですが。)



残念ながら オリンピック直前にフランスで行われた大会で敗退し、オリンピックへの夢は果たせませんでした。それにしても、この2年間フィリピン代表としての戦いを通して“空手に注目してもらおう！子供たちに

夢を！という目的は十分果たしたのだから、これを最後に引退するのだろう “十分燃え尽きたよねえ” と私は思っていました。ところが、これがまた隼南選手のすごい所なのですが、オリンピックを逃した悔しさをバネに 2022年7月アメリカで開催が予定されていた「※「ワールドゲームズ」に参戦しオリンピック達を破り、金メダルを取る！」と落ち込む暇もなく 目標を定めもくもくと練習に励んでいる・・・

(※「ワールドゲームズ」: オリンピックの翌年(4年ごと)に行われ、オリンピックに採用されていないスポーツを一斉に集めた世界大会。つまりどの競技もトップアスリートにとって最高の舞台。)

結果、ワールドゲームズ アメリカ大会で彼女は金メダルをとってしまいます！それも日本代表トップ選手を直接対決で撃破し、自身よりも上位の選手たちをはねのけ、フィリピンに女性で初めてワールドゲームズの金メダルを持ち帰るという快挙を成し遂げます。空手家としての能力の高さは当然ですが、精神力の強さには本当に驚かされます。これを機に今度こそは一線を退くだろうと凡人の私なんかは思ってしまうのですが、まだ今年末の試合に備えて猛練中とのこと・・・

東京オリンピックで空手が初めて採用されましたが、残念ながら日本選手団組手は男女ともに目立った結果を残せませんでした。また、次のパリオリンピックでは空手は採用から外されてしまいました



た。

空手についてはド素人の私ですが、見ていて動きが速すぎる事もあり勝ち負けが良くわからない。また、隼南選手自身も公に発信している様に誤審・アンフェアとも思える判定が多く、選手や観衆にもモヤモヤ感が残ってしまう試合が目立つ。柔道では、見せる柔道・完璧に投げ切る柔道をテーマに、青い柔道着の採用から始まり、ルールの見直し、審判員のスキル強化に取り組み、今ではあれだけ注目される競技に成長し次々と素晴らしい選手が登場しています。空手が競技力を上げ、オリンピックに採用され常連競技と成長していくためには そのような大きな改革が求められていると感じます。

これだけ凄い隼南選手でも必ず引退の時が来るでしょう。でも空手選手として引退するかもしれませんが、一人の空手家として一生引退する事はないのだろうなあとと思います。

是非、選手として引退した後も、空手家として空手競技の発展に尽力してもらいたい、空手を通して世界中の子供たちに夢を与え続けて欲しいと願ってやみません。

最後に隼南選手からメッセージをいただいているのでご紹介したいと思います。

「私を応援していただける皆さんに背中を押されながらオリンピック予選を戦いました。最後の最後で惜しくも負けてしまいオリンピック出場の夢は果たせませんでした。皆さんの応援に応えられなかった悔しさはあるものの、ここまで空手に邁進し全力で生きてこれた自分の人生が如何に幸せかをしみじみ感じることができました。オリンピックを目指して本当に良かったと思いま

す。過去、フィリピンではフィリピン人らしくないと言われ、日本にいればフィリピン代表を選択したことに愛国心にかけてと揶揄され、ハーフである事を心苦しく感じたこともありました。でも、今は双方の国の皆さんから応援の声をいただき、自分がフィリピン人であること、そして日本人であることを心から誇りに思います。そして、そう思えるようにしてくれた両国の皆さんが大好きです。」

月井隼南 2022年11月

